

平成16年度全国都市再生モデル調査

体験型観光拠点(賢島周辺)整備調査 及び基本計画

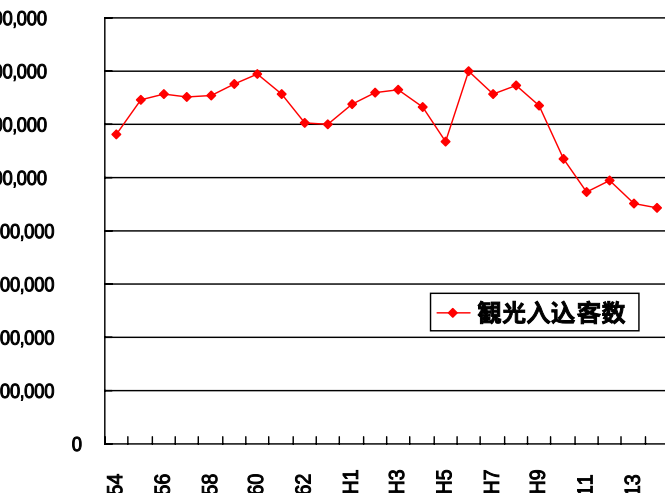
志摩市

賢島の概要

概要

真珠養殖と多島海の風景で知られる英虞湾には大小64の島が浮かび、その1つが「賢島」である。
潮が引くと歩いて渡れるために「徒越え(かちこえ)島」と呼ばれていたの島は長く無人島であったが、明治に入り、御木本幸吉が賢島から300m 沖合の多徳島を拠点として真円真珠を発明し事業化に成功した頃から、注目を浴び始める。昭和初期には志摩電気鉄道が鳥羽から賢島まで開通し、駅前に店舗が並ぶようになった。戦後、伊勢志摩国立公園が指定されてからは、近畿日本鉄道によるリゾート開発が進められ、志摩観光ホテルを代表とする宿泊施設・観光施設が整備された。駅前賑わいを見せ、真珠店を中心に飲食店や土産店が軒を連ねた。
賢島の観光業は、大阪万博に合わせて近鉄特急が大阪・京都・名古屋から乗り入れた昭和45 年をピークに最盛況を迎えたが、その後は観光客の志向の変化や真珠養殖業の衰退の影響を受け、平成不況に入ってから、スペイン村のオープンにより一時持ち直したものの、急速な落ち込みを見せている。

賢島(神明地区)の観光入込客数の推移



位置



活動内容

活動名称	活動内容
・賢島活性化会議	5回開催(平成16年11月・12月・平成17年1月・2月・3月) 地元関係者、観光関係者、行政、学術機関など各回15～20 人が参加。調査に関わる全体の企画進行および計画検討を 行った。
・テーマカレッジ (早稲田大学と提携)	2回開催(平成16年8月・平成17年2月)。大学生10～40 人が参加し、調査・活動・提案等を行う。各回の提案発表会に は地元から約40人が参加。
・社会実験 「みんなが使える賢島」	1回開催(平成17年2月)。地元関係者、大学生など約30人 が参加。車椅子・高齢者疑似体験グッズを使い賢島の使いや すさなどを実地検証した。
・まちづくりシンポジウム 「海から発想する新・ 志摩市のまちづくり」	1回開催(平成17年3月)。志摩市民約180人が参加。川勝 平太氏の基調講演のほか、市民代表5人の基調報告、招聘 ネリスト4人によるディスカッションなどを行った。

課題の整理

○観光客の減少	もともと英虞湾への航路の玄関口として栄えた賢島であるが、自動車の普及、道路網の発達により、航路の需要が減り、利用客も減少した。賢島の先にどのような資源があり、どのように活かしていくかを考えなければならない。
○まちが見えない	賢島の玄関口である賢島駅は来訪者を迎え入れる際、特に大きな役割を果たす。見らしのいい高台に立地しながらも、駅から海を眺めることができない。駅からの眺めだけでなく、商店街の景観や賢島全体としての景観も意識していかなければならない。
○海を感じる場所が少ない	駅前商店街は海の前にあるにもかかわらず、堤防が視界を遮って海を見ることができない。そのため、海と人との距離を近づけていく必要がある。
○現存する歴史的な資源が活かされていない	御木本幸吉に関する歴史や、松井真珠店のような歴史と趣のある建物など、もともと賢島に存在する歴史的資源にも目を向け、保存や利活用を考えていかなければならない。
○まちの空洞化	景気の低迷、観光客の減少などの影響により企業の保養所・大型ホテル・店舗等の閉鎖、縮小が続いている。観光産業にも大きな影響を与えており、何らかの利活用策が必要である。
○多様な客層への対応の遅れ	観光に対する需要の形態や社会環境が大きく変化する中で、従来の「見る」観光から「食べる」「知る」「体験する」「交流する」といったニーズの変化が見られるようになり、在に多様な楽しみを付加することが強く求められている。高齢化、国際化にも対応していく必要がある。
○組織化の必要性	住民それぞれの活動が多様化する中で、それらを組織化し賢島全体としてまとまって継続的に活動していく必要がある。

「5つの方針」と「9つのプロジェクト」



賢島活性化計画図

賢島全域

プロジェクト5: 空きホテル・空き保養所の再生

新しい使い方/新しい仕組み/地域ビジネス 等

プロジェクト9: 仕組み・体制づくり

組織・体制の確立/志士化ソフト・プログラム 等

プロジェクト6: 島内めぐりルートづくり

ルート設定/ガイド/サイン 等

プロジェクト1: 賢島駅リニューアル

エレベーター/エスカレーター/脱め 等

プロジェクト2: 駅前にぎわい空間づくり

歩行者空間/自転車/アクセスルート/公共駐車場 等

プロジェクト4: 歴史的建築資源の保全・活用

木造伝統的建築物の保存・活用 等

プロジェクト3: 海と近づく場づくり

海上デッキ/海沿い空間整備 等

プロジェクト8: 円山公園の整備・活用

展望デッキ・施設/広場整備・活用/アクセス道・遊歩道整備 等

プロジェクト7: 多徳島の整備・活用

ランドスケープ/5つの場所/記憶・地形・風景と活動/種

方針1: どこもかしこも

賢島内を3つのゾーンで捉え、
様々な場所をつないでいく。

方針2: 本物志向

資源や素材を生かして「本物」
「ブランド性」を磨いていく。

方針3: ツーリズム

環境・体験・交流をキーワードに
新しい観光シフトをつくっていく。

方針4: ユニバーサル

ターゲットを広く多様に見据え、
誰もが使える賢島をつくる。

方針5: そのささへ

賢島を、観光客が志摩を愛しむ
ための「中継地点」と捉える。

